

2019年4月26日
東京ガス株式会社

2019年3月期決算説明会
主なQ&A

Q1：ガスのスイッチング件数が増加している。これまで累計では電力小売獲得と合わせてプラスを維持しているが、どのような認識を持っているのか。

A1：関東エリアのガスの競争環境は、競合他社のキャンペーンや新規参入者の増加もあり、厳しさを増している。これに対して、当社のキャンペーンも効果があったと認識している。大口分野においても競争が激化しているが、一度他社に切り替わったものの当社に戻るケースもある。引き続き、ガスと電気、サービスのトータルでのメリットを訴求し、競争を勝ち抜いていく。

Q2：電力小売件数が順調に増加しており、また2019年度には自社電源としての真岡発電所の稼働に伴い電力販売量が増加する割に2019年度の電力セグメントの利益増加が小幅にとどまっている。その理由を教えてください。

A2：真岡発電所は2019年度下半期以降、段階的に2機が本格稼働する予定だが、試運転期間における費用の一部が電力セグメントの利益増加を限定的にしている。

Q3：増配を発表したが、ガス・電力小売全面自由化という環境変化を踏まえ、株主還元の考え方に変更はあるのか。

A3：前回の増配から3年が経過し、将来のさらなる成長に向けた事業基盤の確立が進んだこと、株主・投資家の皆さまからの増配期待が高まっていることを勘案し、5円増額の年60円の配当を予定したものである。

株主還元方針については、2020年度までの総分配性向6割の考え方に変わりはなく、2020年度以降については、2030年を見据えた「目指す姿」の策定の中で検討していく。

以上